

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01698

研究課題名(和文)後期中等教育におけるインクルーシブ教育の展望とその方略の提言

研究課題名(英文)Prospects for inclusive education in upper secondary education and recommendations for strategies

研究代表者

石田 祥代(Ishida, Sachiyo)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：30337852

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：一連の調査を通して、北欧の後期中等教育におけるインクルーシブ教育は、履修進度を勘案した個別の履修計画・指導計画、授業補助者の加配、福祉サービスを活用した学校環境整備と学校生活を支援する介護者の活用、補修機能を備えた中学残留コースや正規入学準備コース、自立訓練機能を備えた若年障害者コースの設置等により、整備されてきたことが明らかとなった。本研究より、日本で進められている個別最適な学びと協働的な学びの具体的方略と、SDGs指標による評価を通じたタスクの明確化が必要と考えられた。社会階級・ジェンダー・民族・地理による排除に関する研究や、多様性を包摂する教育の在り方に関する応用研究が一層重要となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

海外の大学との共同研究を通して、客観的に理論と制度を分析し、多角的な視点から研究を遂行し日本のみならず北欧の教育にも貢献した。

(1)インフォーマルの視点を切り口に分析することでシステムを明確化：インフォーマルという概念を検討に加え、既往の研究では曖昧にされがちであった、資源・ネットワークについても示し、支援システムをより詳細に示すことができた。(2)重層的な教育課程の全体像を把握：研究チームがこれまで積み上げてきた知見を後期中等教育に反映させることで、後期中等教育の教育課程の全体像を把握でき、日本の後期中等教育の重層性をふまえて、その実情に応じた機能的で有効な具体的方略を導き出すことができた。

研究成果の概要(英文)：Through surveys, it has become clear that inclusive education in late secondary education in the Nordic countries has been developed through individual course and teaching plans that take account of progress, additional teaching assistants, the use of welfare services to improve the school environment and carers to support school life, and the establishment of residency courses for secondary school students with remedial functions, preparatory courses for regular admission and courses for young disabled students with independent training functions. In addition, it was found necessary to clarify tasks through specific strategies for individual-optimal and collaborative learning and evaluation by SDGs, which are being promoted in Japan.

Research on exclusion by social class, gender, ethnicity and geography, as well as research on how education can be inclusive of diversity, was shown to be in demand.

研究分野：インクルーシブ教育

キーワード：後期中等教育 スウェーデン デンマーク ノルウェー フィンランド インクルーシブ教育 北欧
高校

1. 研究開始当初の背景

(1)日本の後期中等教育でインクルーシブ教育推進のために方略が求められている

日本において、中学卒業者のうち98%以上の生徒を受け入れている後期中等教育にあって、多様な生徒を包み込むインクルーシブ教育の推進は時代の要請ともいえるが、そのための具体的な方略が未だ不足している状況である。

(2)北欧ではみんなのための学校を目指した後期中等教育の実践が始まっている

北欧では、社会的養護、高校生の学力低下、高校在学中の不登校や退学、非行、ニート等諸問題の打開に向け、今世紀に入り後期中等教育改革を重ね、教育課程や制度を見直す中で、後期中等教育におけるインクルーシブ教育の推進が認められる。これらの試行は既に一定期間の実践を終え、評価可能な段階である。

2. 研究の目的

北欧の後期中等教育におけるインクルーシブ教育の検討から、我が国における後期中等教育におけるインクルーシブ教育、すなわち排除を回避しつつ特別なニーズのある生徒を包摂する後期中等教育の在り方を展望し、将来的な方略を提案する。具体的には、日本の特別支援教育ならびに次世代の学校指導体制に対する示唆を得る。

3. 研究の方法

フォーマルのみならずインフォーマルな側面から、理論と実践を多角的に分析し、研究1から研究4を文献調査、聞き取り調査、現地でのフィールド調査により検証する

【研究1】義務教育におけるインクルーシブ教育の推進は後期中等教育にいかなる影響を与えたか

【研究2】現代的課題に高等学校・職業学校はいかに対応しているか

【研究3】社会への移行支援としての機能ならびにドロップアウトさせない仕組みをいかに設けているのか

【研究4】日本の後期中等教育におけるインクルーシブ教育への示唆と具体的方略の提言

4. 研究成果

(1)義務教育におけるインクルーシブ教育の推進は後期中等教育にいかなる影響を与えたか

特別学校高等部を設置していなかった上に、義務教育におけるインクルーシブ教育の推進で特別なニーズを有する子どもを集めることへのネガティブな捉え方を背景に特別学校が減った。このような動向から、北欧では、後期中等教育段階におけるインクルーシブ教育に影響を及ぼし、高校・職業学校から分離する若年者問題が顕在化した。すなわち、特別な教育的ニーズを満たす教育機関の不足や高校における生徒の学力不足、退学といった問題が浮上した。それらの問題を受け、また、インクルージョンとダイバシティの理念が社会に浸透してきており、高校・職業学校と関連教育機関でのインクルーシブ教育システムが整備され、試行的取り組みも実践されている。

北欧4カ国の共通性として、生徒の教育的ニーズに対する「個別最適な学び」を重要視し、個別教育支援計画とその実施、取り出し授業、学校と学級の環境整備と人材配置が主な支援方法であった。特別な教育的ニーズに対しての「協働的な学び」は、正規の教育課程への入学までの教育機関の整備、高校・職業学校に代わる若年者教育機関の設置、日常生活訓練やソーシャルスキル訓練を行うコースの設置、高校・職業学校・特別高校での特別教育グループの編成等で学びが保障されていた。同じカリキュラムと統一学校制度でインクルーシブ教育を追い求めるノルウェー、特別高校と学校種別でナショナルカリキュラムが異なるスウェーデン、義務教育期間を延ばし基礎教育後の準備教育と職業学校での学習スキル支援教育を整備するフィンランド、高校に自閉症学級を設置しているデンマークのように、各国の独自性もみられた。一方、我が国においても義務教育におけるインクルーシブ教育の推進に続き、高校でも特別支援教育の体制整備が急速に推進されつつある。しかしながら、支援は障害を基準にしている場合が多く、不登校、中途退学、引きこもり、外国籍生徒の日本語能力や学力の不足、ヤングケアラー等の教育的課題はますます顕在化している。また、学校教育と福祉サービスは切り離して捉えられる傾向にあり、有機的に結びついているとはいえない。

(2)現代的課題に高等学校・職業学校はいかに対応しているか

スウェーデンでは後期中等教育におけるインクルーシブ教育の場は統合や通常学校で履修を認める個の統合の他、必要な場合の分離的教育もあった。

デンマークでは、高校と職業教育機関の2つに進路が分岐し、重点化する教育内容に即してコース分けされており、基礎教育の補充として10年生が、移行準備として予備基礎教育機関があ

った。特別なニーズを有する若年者の教育に関する法が3年間の後期中等教育ならびに個別計画を保障し、障害のある子どもは全ての学校/教育機関に就学している可能性があるものの特別ニーズ若年者教育機関が推奨されていた。加えて、高校に自閉症児学級を設置する取り組みも行われていた。このように、デンマークにおける後期中等教育のインクルーシブ教育は多様な教育機関とコースの選択可能性を礎に申請と認定による支援が提供され、法律による教育を受ける権利の保障によって構成されていることが分かった。

ノルウェーでは、多様な教育的ニーズに応じるために学校内部の関係者として担任が窓口になり、管理職との連携体制が生まれ、必要に応じて、キャリアカウンセラー、特別教員やスクールナースが関わっていた。重度知的障害児を特別学級で指導する高校に食品加工特別学級、自立を目指す支援付きの特別学級が設置されていた。このように、ノルウェーでは高校が主体となり後期中等教育におけるインクルーシブ教育が推進されていることが明らかとなった。

フィンランドでは、特別な教育的ニーズのある生徒は10年生、高校、職業学校、職業教育・訓練：ヴァルマ、活動・生活訓練：テルマから進路選択を行い、義務教育の移行支援として、キャリアカウンセラーと特別教員による進路相談、進学先との調整、学校訪問同行などが行われていた。また、2021年には義務教育期間を18歳まで延長し、取り残さない教育への試行が続けられている。

(3) 移行支援としての機能ならびにドロップアウトさせない仕組みをいかに設けているのか

本研究対象国いずれの国においても、基礎教育修了後の学力定着は重要視されていた。デンマークとフィンランドでは学力定着に加え、後期中等教育への移行支援の機能として義務教育学校に10年生があった。

加えて、いずれの国においても後期中等教育機関への入学要件を満たさない者のために進学準備コースが設けられている。たとえば、スウェーデンでは、高校イントロダクションプログラムと称され、高校1年生の約17%がこの課程に在籍している。高校の正規プログラムへの入学要件を満たすことが第一の目標であるが、対象生徒や教育目標が異なる4種のプログラムがあり、学力が低い生徒や移民、特別なニーズのある生徒への教育的支援の一つとなっている。あと1, 2教科で要件を満たす生徒対象に正規コースの教科も履修できる学科に沿った選択プログラム、スウェーデン語の強化のための言語イントロダクションプログラム、職業教育コースへの進学を目指す生徒に職業イントロダクションプログラムがある。より多様な個々の教育的ニーズに対応し得るために個別プログラムも設けられており、障害のある生徒の利用も多い。

一方、理数系領域や芸術領域等に特異的な才能を示す若者が集う学校がフィンランドにみられた。設置上は職業学校の扱いで、自治体の高校と連携しながら、コース修了までに大学入試資格試験を受験し高校卒業資格を取得する。高校の教職員が同校で授業を行う他、連日45分授業を12コマ提供するなど独自の教育プログラムで生徒の学習意欲を後押しする。また、デンマークでは保護者の要望により2000年代の終わりという比較的早い段階で自閉症学級を設けた高校がある。障害特性に応じた配慮として、全員パーティション付きの個人デスクを使用する、少人数制で学習するなど学び方を工夫することで集団からの排除やドロップアウトが防止され、高校での学びが保障されていた。

さらにデンマークにおいては、教育心理センターとコースセンターが連携し、中学卒業後の若者の学籍や所在、多様な相談にのり、教育機関や就労に結びつける試行を開始した自治体もみられた。積年問題となった「消えた若者」問題へ自治体をあげて取り組む様子が伺えた。

(4) 日本の後期中等教育におけるインクルーシブ教育への示唆と具体的方略の提言

以上のように、一連の調査結果の分析を通して、北欧において後期中等教育でインクルーシブ教育システムが整備され、若年者の教育の質への機運の高まりが伺えた。そして、後期中等教育段階においてもインクルーシブ教育の意義が見出された、また、各国や自治体の独自性もみられた。

今後は、我が国が取り組んでいる個別最適な学びと協働的な学びをさらに検討し、有機的な学びになるよう具体的方略を示すことが喫緊の課題である。加えて、SDGs指標による評価で今後取り組むべき我が国のタスクを明確にすることで、後期中等教育の質をさらに高めていくことができるだろう。

本研究を通して得た北欧各国の取り組みによる知見の蓄積は、インクルーシブ教育を志向するが未だ発展の途上にある国にとっても、各国のインクルーシブ教育の全体像を捉えるためにも重要である。今後は、社会階級、ジェンダー、民族・地理による排除についての分析や、これらの各領域に関するインクルーシブ教育の研究が求められている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 石田 祥代、是永 かな子、本所 恵、渡邊 あや、松田 弥花	4. 巻 16
2. 論文標題 インクルーシブ教育から見た義務教育から後期中等教育への移行とその支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 39～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24579/janes.16.0_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Basic Goran、Matsuda Yaka	4. 巻 56
2. 論文標題 Inclusion and obstacles in the Swedish social pedagogical context	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hrvatska revija za rehabilitacijska istra?ivanja	6. 最初と最後の頁 1～18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.31299/hrri.56.1.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 草薨佳奈子・松田弥花・佐藤真久	4. 巻 1
2. 論文標題 VUCA社会における参加と変容を促すESDアプローチ：スウェーデンの民衆教育と社会的学習の事例研究から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Working Paper Series in United Nations University Project “Reinforcing Societal Resilience by Promoting Education for Sustainable Development (ESD)”	6. 最初と最後の頁 2～11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 是永 かな子	4. 巻 16
2. 論文標題 スウェーデンにおける民主主義社会の構成員（samh?llsmedlem）を育成するインクルーシブ教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 1～11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24579/janes.16.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 29(3)
2. 論文標題 ノルウェーの後期中等教育段階における「特別な学校」の機能	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 LD研究	6. 最初と最後の頁 193～198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 37
2. 論文標題 スウェーデンにおける障害のある人に対するシンボルを用いた情報保障	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北欧史研究	6. 最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山浦祐香・是永かな子	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 デンマークの国民学校におけるペダゴグ（Paedagog）の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達障害支援システム学研究	6. 最初と最後の頁 85～92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 69
2. 論文標題 特別ニーズ教育の観点からの外国の背景のある子どもの支援に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 59～68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 69
2. 論文標題 スウェーデンにおける子ども健康チームを活用したインクルーシブ教育推進	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 49～58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 69
2. 論文標題 インクルーシブ教育を推進する教員のマインドセットに関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 37～47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子・ニルス イェールンド	4. 巻 3
2. 論文標題 デンマークの教員におけるインクルーシブ教育への態度 Moberg Attitude Scale による結果と考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高知大学学校教育研究	6. 最初と最後の頁 69～76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 61
2. 論文標題 平等性と卓越性の両立をどう図っていくか フィンランドの選択と葛藤	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 00～00
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊 あや	4. 巻 16
2. 論文標題 フィンランドにおける義務教育をめぐる議論から考える「北欧的価値」のゆくえ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 27～38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24579/janes.16.0_27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田祥代・是永かな子	4. 巻 15
2. 論文標題 デンマークにおける地方自治構造改革後のインクルーシブ教育の取り組みに関する報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子・石田祥代	4. 巻 15
2. 論文標題 スウェーデン・トッメリラ自治体における中央子ども健康チームの取り組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 デンマークにおける地方分権の推進とインクルーシブ教育改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 LD研究	6. 最初と最後の頁 296-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ulf Fredriksson, Kanako N. Kusanagi, Petros Gougoulakis, Yaka Matsuda, Yuto Kitamura	4. 巻 12
2. 論文標題 A Comparative Study of Curriculums for Education for Sustainable Development (ESD) in Sweden and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1 - 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakari Moberg, Etsuko Muta, Kanako Korenaga, Matti Kuorelahti & Hannu Savolainen	4. 巻 35
2. 論文標題 Struggling for inclusive education in Japan and Finland: teachers' attitudes towards inclusive education	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 European Journal of Special Needs Education	6. 最初と最後の頁 100-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 是永かな子・眞城知己・石田祥代	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 デンマーク・ボーンホルム自治体におけるインクルーシブ教育推進 2007年以降の地方分権改革との関連を念頭に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本発達障害システム研究	6. 最初と最後の頁 67-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子・石田祥代	4. 巻 80
2. 論文標題 フィンランドの後期中等教育学校におけるインクルーシブ教育の展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 221-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子・石田祥代	4. 巻 80
2. 論文標題 スウェーデンの後期中等教育学校におけるインクルーシブ教育の展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 119-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子・石田祥代	4. 巻 80
2. 論文標題 ノルウェーの後期中等教育におけるインクルーシブ教育の展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 209-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永かな子	4. 巻 2
2. 論文標題 北欧4か国における多様な教育的ニーズのある子どもを包括した授業実践 デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドにおける個に応じた集団指導の取り組み 北欧4か国における多様な教育的ニーズのある子どもを包括した授業実践 デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドにおける個に応じた集団指導の取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学学校教育研究	6. 最初と最後の頁 107-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山浦祐香・是永かな子	4. 巻 68
2. 論文標題 デンマークの特別学校におけるペダゴゴの役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山浦祐香・是永かな子	4. 巻 68
2. 論文標題 デンマークの就学前教育機関および国民学校におけるペダゴギーの役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田弥花	4. 巻 80
2. 論文標題 スウェーデンの基礎学校におけるSocial Pedagogue配置の意義 『インクルーシブ』の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 301-311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 本所恵
2. 発表標題 スウェーデンの高校イントロダクション・プログラムの成果と課題 教育目標と評価のあり方に注目して
3. 学会等名 教育目標・評価学会 第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 是永かな子
2. 発表標題 特別ニーズ教育の観点からの外国の背景のある子どもの支援に関する一考察
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yaka Matsuda, Kanako Korenaga, Tomomi Sanagi, Aya Watanabe, Megumi Honjo, Sachiyo Ishida
2. 発表標題 Comparative Study on Inclusive Education in Upper Secondary Education in the Nordic Countries
3. 学会等名 The Nordic Educational Research Association; NERA (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko Sawano, Miyuki Ohta, Hiroyuki Sato, Kanako Korenaga, Yaka Matsuda, Noriko Hasegawa
2. 発表標題 Comparative Studies on Recognition of Outcome of Various Lifelong Learning -- Searching for Effective Policy Linkage Structure
3. 学会等名 WERA World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 是永かな子
2. 発表標題 スウェーデンにおける民主主義社会の構成員(samhällem)を育成するインクルーシブ教育
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 是永かな子・石田祥代
2. 発表標題 ノルウェーの後期中等教育におけるインクルーシブ教育の展望
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 是永かな子
2. 発表標題 北欧4か国における多様な教育的ニーズのある子どもを包括した授業実践
3. 学会等名 日本LD学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊あや
2. 発表標題 フィンランドにおける義務教育を巡る議論から考える『北欧的価値』のゆくえ - 民主主義の価値に根差した多元的社会を生きる市民の育成を担う教育の展望
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊あや
2. 発表標題 フィンランドの教育制度と基本情報
3. 学会等名 第5回NISE特別支援教育国際シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田弥花
2. 発表標題 最近の特別支援教育の動向と 発達障害の基礎知識と実践-インクルーシブ教育のありかたについて-
3. 学会等名 高知県教育カウンセラー協会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 本所恵・松田弥華・是永かな子（北欧教育研究会編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 北欧の教育最前線	

1. 著者名 本所恵（伊藤実歩子編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 290
3. 書名 変動する大学入試	

1. 著者名 是永 かな子、尾高 進	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 168
3. 書名 特別支援教育	

1. 著者名 是永かな子（高橋智・加瀬進監修）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 318
3. 書名 現代の特別ニーズ教育	

1. 著者名 石田祥代	4. 発行年 2019年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 234
3. 書名 4章 海外の特別支援教育 『特別支援教育 一人ひとりの教育的ニーズに応じて』	

1. 著者名 石田祥代	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 109
3. 書名 Chapter1 特別支援教育とは 『教師と学生が知っておくべき特別支援教育』	

1. 著者名 是永かな子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 430
3. 書名 第2章 障害者福祉 『世界の社会福祉 3巻 北欧』	

1. 著者名 渡邊あや	4. 発行年 2019年
2. 出版社 財団法人教科書研究センター	5. 総ページ数 191
3. 書名 コンピテンシーを基盤とする教育課程基準下の教科書のあり方に関する研究 - フィンランドの 『母語と文学』 の教科書を事例として 『若手研究者に対する教科書等調査研究費助成事業論文集』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	眞城 知己 (Sanagi Tomomi) (00243345)	関西学院大学・教育学部・教授 (34504)	
研究分担者	松田 弥花 (Matsuda Yaka) (20824171)	高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・助教 (16401)	
研究分担者	渡邊 あや (Watanabe Aya) (60449105)	津田塾大学・学芸学部・准教授 (32642)	
研究分担者	本所 恵 (Honjo Megumi) (80632835)	金沢大学・学校教育系・准教授 (13301)	
研究分担者	是永 かな子 (Korenaga Kanako) (90380302)	高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・教授 (16401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関